

改訂版 監修の序

「消化器疾患の臨床分類」の初版が出版されて約6年が経ち、消化器疾患の内視鏡診断の分野では、急速な進歩を遂げています。また、この6年の間に各疾患の診断基準、ガイドラインなどが大きく変わったこともあり、改訂版を出す次第です。

このたびの改訂版では、内視鏡検査に携わるメディカルスタッフや研修医の方々にもわかりやすいように画像を多く取り入れ、初版と同じコンセプトになっています。著者も大幅に変わり、内視鏡像もより良い像に改善しています。また、疾患の記載についても内容の更新がなされています。改訂版で取り上げている疾患は初版とほぼ同じですが、初版に記載のあった拡大内視鏡の分野でも所見について詳しく記載し、拡大内視鏡の部分はかなり充実しています。拡大観察・NBI観察などをもとにした内視鏡所見により、早期癌の深達度を判定して癌に対する内視鏡治療の適否が決められており、臨床の場でも、内視鏡所見をもとにした治療経過などの臨床研究が期待されます。その時にも所見のとり方を各施設で一致させることが重要になります。その際にこの本を活用していただきたい。

初版に引き続き改訂版の編集者として、長浜隆司先生（千葉徳洲会病院消化器内科）、中島寛隆先生（早期胃癌検診協会中央診療所）があたり、改訂版に新しく高木靖寛先生（福岡大学筑紫病院消化器内科）、牛尾 純先生（自治医科大学内科学講座消化器内科）、鶴田 修先生（久留米大学消化器病センター）の先生方に加わっていただき、内容の充実を図りました。改訂版の出版に際して各編集者が大まかな内容を決めて、実際に執筆した先生方に御礼申し上げます。また、改訂版の出版に際して羊土社のご厚意により発行されたことに厚く御礼申し上げます。

2014年 7月

松川正明

改訂版 編集の序

「消化器疾患の臨床分類」は当初、若手の先生方やメディカルスタッフへの教育・指導の際、どうしても必要な消化器疾患の臨床分類が一冊にまとまったわかりやすい本があればいいなと考えて企画したものでした。臨床分類は多岐にわたり、当時わかりやすくまとまった本がなく、疾患に応じてさまざまな本や文献を引っ張りだしていましたが、そのような煩雑さをなくし一冊にまとめて、さらに写真や図表を多くしてビジュアル的にわかりやすい本を作ろうというのが基本コンセプトでした。

今回初版を発行して約6年が経ち、その間に新しい分類、診断基準、規約、ガイドラインができたり、改定が行われており、最新の内容に執筆し直して出版することになりました。

初版に引き続き監修を松川正明先生にお願いし、編集を長浜隆司、中島寛隆先生に加えて各分野のエキスパートである高木靖寛先生、牛尾 純先生、鶴田 修先生に新たに加わっていただき、当初の基本コンセプトを変えることなく最新の内容と美しい画像を提示しより内容を充実させております。消化器内科の先生方のみならずメディカルスタッフや他科の先生方にも読みやすく実用的な本になったと自負しています。

本書の出版に関して多大なる御苦勞、御尽力をいただいた羊土社の編集担当の嶋田、林両氏に改めて感謝の意を表します。本書を執筆された先生方、また初版で執筆いただいた昭和大学附属豊洲病院の先生方の御尽力がこの本の基盤になっていますのでこの場を借りて感謝申し上げます。

最後になりましたが本年3月に急逝された、我が師 西澤 護先生のご霊前に本書を捧げます。

2014年 7月

編者を代表して
長浜隆司

初版 監修の序

私が昭和大学附属豊洲病院に勤務して16年が経ち、さらに内科教授として10年が経ちました。はじめは消化器科でしたが、2005年に消化器科と内科が統合して、内科になりました。日頃から内科疾患のなかで最も多い疾患の一つである消化器疾患についてまとめたいと考えていました。消化器疾患の治療を考えた場合、消化器疾患の診断とともに臨床分類が非常に重要になります。そこで、今回消化器疾患の臨床分類について、消化管（食道、胃、小腸、大腸）と胆道・膵をまとめました。今まで消化器診断について述べられた著書は多く出ていますが、最新の画像（X線像、内視鏡像、超音波像、CT像など）と臨床分類から述べた書籍はほとんどありません。いろいろな画像とともに臨床分類を加え、文献的な考察を付加しました。特に、画像について納得できるきれいな画像を厳選しました。食道・胃などの炎症についても最新の知見も加えられています。胆道系・膵に関して超音波像・CT像なども加えて詳細に述べられています。

研修医、若手医師においても消化器疾患の診断と臨床分類に迷ったときには本書を参考にしていただければ幸いです。本書が一般診療に活かされ、患者さんにとっても有益であることを期待します。消化管診断では形態学的な肉眼所見が重要であり、画像所見で注目すべき点について述べられています。

今回、「消化器疾患の臨床分類」を昭和大学附属豊洲病院で経験した症例をまとめました。若手医師たちが豊洲病院で経験した症例を中心に文献を加えたのが本書です。

今まで、消化器診断についてご指導いただいた順天堂大学名誉教授 故白壁彦夫先生、元東京都がん検診センター所長 西澤 護先生、元都立駒込病院病理部長 故望月孝則先生からご指導いただいたことが本書に十分に活かされていると思いますとともに先生方には厚く御礼申し上げます。本書の出版に関して、編集者の長浜隆司先生、中島寛隆先生、山本栄篤君が大まかな内容を決め、実際に執筆した昭和大学豊洲病院内科消化器部門の先生方に感謝の念を捧げます。また、出版に際して羊土社のご厚意により発行される運びとなりましたことに厚く御礼申し上げます。

2008年 9月

松川正明

初版 編集の序

消化器系の実務に日が浅い方，逆に専門ではあるものの改めて消化器病の概要を短い時間で習得したい方，専門は他科で報告書などの内容を簡便に調べる一冊を探していた方，図柄が判りやすそうと感じた方．本書はそんな「おいしい」「かゆいところに手が届く」本を求める医療従事者のためのものです．

消化器系疾患の治療決定や経過観察には，採血データや生理検査以上に内視鏡や超音波などの画像に触れることは避けられず，重要度も比較的高いと思われます．その画像診断は経験や直感だけではなく，それらの視覚的所見を解析し根拠に基づいて行われています．各画像診断には疾患や所見の分類が数多くあり，また診断医によって採用するものが異なったりすることは日常茶飯事でありましょう．ましてや消化器専門外の方々においては臨床的価値がなかなか伝えきれないことも少なくないはずです．

そこで臨床研修医から専門医までの多くの方々に，形態・画像診断する際や報告書を解釈する段で一目瞭然の便利なものを創り上げたいというのが本書のねらいでありました．一般的な病態に対する概説と分類を画像も織りまぜてわかりやすく，おのおの立場の方が実務的である本をモットーに奮闘しました．したがって各分野の第一人者ではなく，あえて今「使える実務書」を欲する消化器領域の若手医師によって分担執筆をしました．現場のニーズを肌身で感じている者同士が悪戦苦闘し，稚拙な表現や図解に対して各編者の先輩方や編集者の助言をいただき完成させた次第です．

あわよくば本書を利用したことがきっかけで，ひとりでも多くの従事者が形態・画像診断に興味をもち，世界に名立たる日本の消化器診断・治療学を志す仲間が増えることを願ってやみません．最後に，多大なる御労苦，御尽力を頂いた羊土社の編集担当の嶋田，秋本両氏と叱咤，激励いただいた編者の諸先輩方，執筆された諸先生方に改めて感謝の意を表する次第であります．

2008年 9月

編者を代表して
山本栄篤